

# 点描ぐんま経済

日銀支店長 見聞録

52

「急がば回れ」「急いで仕事をし損じる」。これは、子どもの頃に親によく言われたことだった。私は子どもの頃からせっかちだったのだろう。「子供会」でソフトボールを習っていたが、すぐに上達しないので、そのことを親に話したり、算数の問題もすぐに答えを知りたがった。

「急がば回れ」の格言を思い出させていたのだが、ある建設会社の社長のお話を拝聴するために伺った時のことである。

その企業は「建設プロジェクト企業」を掲げ、建築関連施設、食品流通

## 仕事は「段取り八分」

さらに売り上げを伸ばすという事はされないうのですか」と聞いてみた。

そうすると、「建設業界は景気の変動を受けやすいので、身の丈に合った規模にする必要があるのです。そうしないと、次に景気が悪くなった時に、コントロールできないのです」とのお答え。その

## 事前の準備が大事

通関連施設、環境関連施設を得意とされている。ここ数年確実に業績を伸ばされているので、「社員を増やして、

通関連施設、環境関連施設を得意とされている。ここ数年確実に業績を伸ばされているので、「社員を増やして、

また、「最近業績を伸ばされているのは何が寄与していますか」とお伺いしたところ、「それは、やはり顧客満足度を上げることでしよう」との明快なお答え。ここで思い出したのが「急がば回れ」。業績を上げようとして、

計図をCG（コンピュータ・グラフィック）にしてプレゼン。設計図と完成後の写真の両方を見せていたが、どちらが本物か分からないぐらい、ほとんど同じものだった。立体映像をお客さんに見てもう一つに

通りに加工。現場では、加工した配管を組み立てるので、所要時間が3分の1になるらしい。すなわち、生産性が上がるのだ。そこで、この社長の談。「やはり仕事は『段取り八分』なのです。事前

て、価格を下げて量を確保しても、顧客満足度が下がれば、その後の受注に影響があると

の場所や見た目を確認してもらい、後戻りを少なくすることができるとの由。

また、配管の加工を現場でやるのではなく、自社工場

話は大変面白かったの

後、同行した部下に「今日のお

この建設会社は、顧客に対して、物件の設計図

現場でやるのではなく、自社工場

また、配管の加工を現場でやるのではなく、自社工場

話は大変面白かったの

後、同行した部下に「今日のお



岡山和裕（おかやま・かずひろ） 1969年7月生まれ。兵庫県出身。東京大法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを経て、2018年4月から現職。